


## 供給車で見る時代の流れ

1973年（設立当初）：中古の小型軽四輪トラック5台で牛乳を個別配達。



1990年代初頭まで：ほろ付きトラック使用。

1992年から：衛生的で安全・安心な食の供給のため、箱型トラックに。組合員・職員・生産者の三者一体のイメージデザイン「」の供給車両。



2008年から現在：「食の未来づくり運動」産直の東都生協をアピールする現在の車両に。「供給コースの効率化」「小型車両の導入」「車両燃料（ガソリン・ディーゼル（軽油）・LPG）の環境負荷や使用燃料のバランス」を図りつつ、計画的な車両代替を進めています。

## あの時を振り返り、これからを思う

～元副理事長からの「東都生協50周年、おめでとう！」メッセージ～

矢野 洋子さん

（副理事長在任：1999年度～2006年度）



在任中の豚肉偽装問題、仕入委員会制度の廃止は重要な課題でしたが、一方でくらしの助け合いの会「ほっとはんど」や「東都人材バンク制度」、3つの地区運営委員会から一つの新組合員組織への移行など新しい活動づくりもあり、いつも大いに議論し、次へとつなげてきました。

東都生協は「産直」「協同」「民主」を通して、いのちとくらしを守る活動と事業を展開してきましたが、改めて今、「いのちとくらしを守る」ことが重要になってきています。東都生協の商品や関わるさまざまな活動を通して、その先にある課題や問題にも目を向け、自分にできることをしていきたいですね。

まずは利用し、知ることから！

利用して知り、その先にある課題に関心を持つ

人にも地球にも優しい東都生協

池田 京子さん（副理事長在任：2013年度～2014年度）



私が副理事長の時に「地域委員会」「とーと会」「サークル」という仕組みを作り、新しい組合員活動がスタートしました。地域コーディネーターの募集には、組合員活動未経験の人も含め多くの応募があったことが思い出されます。

組合員活動も時代に合わせて変化することで、いろいろな立場の人が無理なく参加でき、その結果、日常生活が豊かになると良いですね。今、私は商品の利用が主ですが、日本の農業や環境、平和に関する東都生協の考え方は、持続可能な社会を目指すSDGsの開発目標そのものであり、本当に素敵な生協だなと感じています。これからも変わることなく人にも地球にも優しい生協であり続けてください。

組合員活動を通して人とつながり学ぶ

原田 久子さん（副理事長在任：2019年度～2020年度）



在任中、新型コロナウイルス感染症の影響で参加型の組合員活動の中止が続き、その中でも工夫してできる組合員活動を続け、オンラインの画面を通してみんなに会えることが分かり、改めて人とのつながりの大切さを感じました。

組合員活動での人との出会いや学びは、生きる力になります。私自身、子育て中に幸運にも東都生協に出会い、安全・安心なおいしい商品、生産者や仲間との交流、食や環境などについての学びなど、組合員活動を通してからだも心も育てていただきました。この先、困難が立ちはだかった時、解決に近づけるように未来の子どもたちや自身の健康のためにも組合員活動で共につながり合いましょう！

商品案内

「Sanbonsugi（さんぼんすぎ）」  
キャラクター「るんるんズ」

●1995年、東都生協の「三本杉マーク」をモチーフに職員が「三人の妖精」を考案。右から生産者、組合員、職員をイメージし、利用普及や仲間づくりなどに大活躍。



●東都生協40周年を機にデザインを改め、組合員モニターにより、みんなの「おいしい！」というルンルンな気持ちから「るんるんズ」と命名。



たべるとつくるん  
とを食べものでつな  
ぐ妖精、くぼるん。

安心できる、おい  
しいものを求める  
妖精、たべるん。

おいしいものを  
ていねいに作る  
妖精、つくるん。

## 東都生協だよりはMOGMOGへ、組合員の笑顔をつなぐ

2023年6月10日、東都生協は設立50周年を迎えました。「東都生協だより」として始まった機関誌は、2010年7月号から『MOGMOG』（第348号）としてリニューアルしましたが、一貫して安全・安心、産直にこだわった東都生協の考え方や取り組みについて、組合員の皆さんにお伝えしてきました。今号は『MOGMOG』を中心に、東都生協の50周年を振り返ります。

変化：成長

あの子は、  
そして あの人は、今…！

過去の誌面に登場した  
「あの子」「あの人」は、時を経て  
今、どのように過ごされて  
いるのでしょうか？



2015年7月8月号 特集「あなたが東都生協を選んだ理由はなんですか？」に登場。「重いオムツを毎週届けてくれるから」と答えたお母さんに抱っこされているこはるちゃん。自在に一輪車に乗れる元気なお子さんに成長していました。

こはるさん  
（当時：5カ月、現在：3歳）



2018年1月号 特集「次世代につなぐ産直」に登場。お母さんに抱っこされて「食の未来づくりフェスタ」に会場していた珠美ちゃんも、好みの洋服を選ぶお子さんに成長していました！

珠美さん  
（当時：8カ月、現在：1歳）

こはるさんと珠美さんへ質問！

- ①シャインマスカット、夏のおいしい露地トマト、桃、豆腐。見た目では分からないけれど、食べると“おいしい〜”ってなるところが好き。八千代牛乳は毎日飲んでいて、飲むのが当たり前すぎる感じ
- ②そのままです
- ③（参加していた）お姉ちゃんと作ったふわふわケーキ（トライフルケーキ）
- ④保育園の先生

- ①大好きな東都生協の食べ物は？
- ②野菜の好きな食べ方は？
- ③産地交流訪問など、覚えている組合員活動は？
- ④将来の夢は？

- ①産直たまご。新鮮なので自分で上手に割ることができる。冷凍の山芋とおくら。朝、時間がない時もこれを食べてエネルギーをつけて学校に行ける
- ②蒸したり、サラダにしたり
- ③「戦争体験&バルーンアート」に参加して以来）ママやおじいちゃんとバルーンアートを作ってお友達と遊んだり、プレゼントしたり…
- ④スイーツ屋さん

加藤 健職員



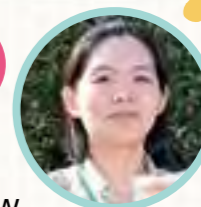
2011年3月号 特集「共に生きる」に登場。当時、目黒センター・副センター長。現在、Web推進室で業務全般のまとめ役やYouTubeの演者を担当。

Web推進室から魅力ある情報発信！

センターの業績管理の責任者として無我夢中で日々の業務課題に取り組んでいました。それが今、とても頼れる仲間にも囲まれ、Web注文やSNSの発信に関わる仕事に携わり、当時は想像もつきませんでした（笑）。

今後、Webの活用が商品の利用や組合員活動においてもますます必須となります。よって、Web推進室の果たすべき役割は、非常に重要です。Web注文が苦手な方にも利用しやすい仕組みづくり、紙面では伝えきれない情報をどんどん提供し、SNSやオンラインでの交流を通じて、組合員の皆さんに産地やメーカーの魅力も存分に発信していきます。

上田 佳奈職員



2015年6月号 特集「続けられるNEWブランド 東都ナチュラル誕生！」に登場。当時、商品部・商品企画グループで誌面を担当し、現在は総合企画室で機関誌運営を担当。

より良い社会を次世代に！

いろいろな職員の思いが詰まった「東都ナチュラル」。その思いを100%紙面に表現するのは困難を極め、葛藤の日々でした。でも、有機農業の重要性を社会の中に位置付け、「環境保全」の視点を強調できたのは良かったと今でも思っています。

高度経済成長期の下で起こった歪みを「食と農」で是正しようという東都生協のミッションは、「いのちとくらしを守る」ことを目的に、「産直」「協同」「民主」を手段として取り組んでいます。気候変動や後継者不足など、新たな問題に対応しきれないことに焦燥感を覚えます。組合員の皆さんからお知恵をいただき、より良い社会を未来につなぎたいと思います。



# 東都生協が歩んだ半世紀

— この先もみんなで一歩一歩! —

1967年、「安全でおいしい牛乳を安く飲みたい」という思いから「天然牛乳を安く飲む会」を発足。その後、高度経済成長期による公害問題により、安全で質の良い食品を望む声が高まり、1973年6月10日、東都生協が誕生しました。それから半世紀、東都生協の歴史を振り返ります。



社会の主な出来事・流行

小惑星探査機「はやぶさ」が地球重力圏外天体に着陸(世界初)、無事地球へ帰還

東日本大震災発生

「塩こうじ」流行

日本、TPP交渉参加を表明

消費税が5%から8%へ  
ノーベル平和賞にマララさん

「おにぎらず」流行

協同組合がユネスコ無形文化遺産に登録

「ちぎりパン」流行

ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)ノーベル平和賞受賞  
東都生協もヒバクシャ国際署名に取り組みました

「サバ缶」流行

消費税が8%から10%へ  
元号が令和へ

新型コロナウイルス感染拡大のため緊急事態宣言発令

「フルーツサンド」流行

核兵器禁止条約発効  
コロナ禍で1年遅れの東京オリンピック・パラリンピック開催

ロシアのウクライナ侵攻

「豆腐干」流行

## 東都生協の主な出来事

2010

2011

2012

2013

2014

2015

2016

2017

2018

2019

2020

2021

2022

2023

**「新世代チャレンジプロジェクト」を宣言**  
新しい世代が協力して未来に続く産直を創造することにチャレンジ! 登録トマト「百年トマト」「銀二郎トマト」「一株マイルトマト」はこのプロジェクトから誕生。

**東都もーもーティッシュ 供給開始**  
牛乳パックの再生と八千代牛乳生産者への支援商品として開発。売上金の一部が生産者へ寄付されます。

**「まいとどちゃん」登場**  
毎回ちゃんと自動でお届け! 食べる約束(登録商品)は、生産者・メーカーの励みになります。  
☆名前は組合員への公募で「まいとどちゃん」に!  
☆現在は、「かくとどちゃん」と「つきとどちゃん」も仲間入り!



**【2011年4月号】**  
第1回「食の未来づくりフェスタ」開催  
総勢3,800人が五反田に集合!



**【2012年1月号】**  
「新世代チャレンジプロジェクト」第2回「食の未来づくりフェスタ」で再認識!  
日本の農業を元気にするぞお!!



**【2010年7月号】**  
機関誌は「MOGMOG」へリニューアル

**弁当配食事業始動**

**「わたしのこだわり」ブランド登場**

**TPP(環太平洋経済連携協定)参加に反対する旨の要望書を政府に提出**

**【2014年9月号】**  
「わたしのこだわり」調査隊。みんなの疑問に答えます!  
●「わたしのこだわり」の「こだわり」って何?  
●誰が評価してるの? etc.

わたしのこだわり

**【2013年6月号】**  
座談会 新世代チャレンジプロジェクト =tomorrow=  
生産者座談会:井上嘉輝氏(1株マイルトマト)、前田銀二郎氏(銀二郎トマト)、高柳仁氏(百年トマト)



**東都ナチュラルブランド誕生**

**「ア・ラ・タスカル」開始**  
組合員の暮らしのお助け、家事代行サービス



**【2015年10月号】**  
「おにぎらず」を作ってみましょう!

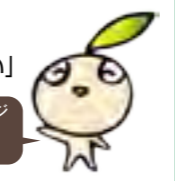
**東京都と事業者との連携による高齢者等を支える地域づくり協定を締結**  
配送業務中に高齢者の異変を察知した場合、行政の窓口と連絡し、支援につなげています。高齢者への弁当配達時も、見守り活動に取り組んでいます。

**東洋ライス(株)との「米の精」に関する基本協定を締結**  
金芽米(BG無洗米)の加工で除去した肌ぬかからできた有機質の肥料・飼料「米の精」の開発者、東洋ライス(株)と農産品ブランドを開発。肌ぬかを利用し、環境保全、循環型農業の実現と食料自給率向上に貢献します。

**【2016年3月4月号】**  
東都生協の助け合い・支え合い運動  
●被災地での支え合い  
●ア・ラ・タスカル ●夕食宅配 etc.



**【2017年2月号】**  
「土づくり」からはじめる食の未来づくり  
●「米の精」でつながる「おいしい」「やさしい」  
●循環型農業を実践する各産地 etc.



**【2017年10月号】**  
誰もが安心して暮らせる未来のために  
●子どもの貧困問題 ●子ども食堂を開設する心得  
●フードドライブ実施 ●東都生協 福祉政策2025 etc.

**「未来につなぐ募金」の募集開始**  
組合員からの募金は、貧困問題に取り組む団体の支援に活用しています。

**【2019年5月号】**  
「未来につなぐ募金」ってなあに?



**東京南部生協と組織合同**

**コロナ禍でも「供給を止めない!」**  
緊急事態宣言下で通常の1.5倍となった注文商品を正確に届けるために、供給業務に注力。非接触型供給やマスク着用など、対策を徹底しました。

**2030年ビジョン策定**

**新しい生活様式、交流方法の確立**  
コロナ禍で、対面の組合員活動(学習会・交流会など)が大きく制限される中、オンラインの活用で組合員参加の幅が広がり、産地応援メッセージの送付など、今できる活動を工夫しながら実施しました。



**JA東京中央との連携協定を締結**

**【2021年9月号】**  
私たち組合員は未来に向かって進みます!  
(第47回通常総代会報告)

「食と農の感動体験を通して、みんなの未来をいっしょに歩みます。」  
東都生協の価値でもある食と農を通して、誰一人取り残さないいっしょな未来をめざすことが決まりました。

**東都生協 設立50周年**  
10月号より「MOGMOG」誌面のリニューアル  
これからも、組合員の目線で充実した内容をお届けします。

**【2023年3月4月号】**  
JA東京中央 千歳地区 農業感謝まつり2022



1967 「天然牛乳を安く飲む会」発足

## 1970年代

1973 **設立総会**  
設立に尽力した組合員423人の心が設立趣意書(1.産直運動の推進、2.消費者運動への積極的参加、3.民主的運営)につづられた。

1974 **機関誌「東都生協だより」創刊 三本杉マーク決定**  
組合員が協力し合う三本の杉は、風に耐え、たくましく成長する意。シンボルカラーは自然を大切にする緑。



## 1980年代

1985 **OCR導入(注文書処理システム)**  
「班で注文書回覧、当番が集計、集金職員に手渡し」という作業がなくなりました。

**みんなで作った「東都もめん豆腐」供給開始**  
国産大豆100%、天然にがり使用、消泡材不使用の「東都もめん豆腐」が、(有)須黒食品との共同開発(試作品作りに2年)、誕生。翌1986年に「東都ソフトとうふ」が登場。

**八千代牛乳の生産者にタオルを贈る運動(3,000本)を展開**  
この運動は現在も隔年で継続中。

## 1990年代

1991 **タイ・タヤン農協ホームトパンバナ トライアル供給開始**  
農業無散布の「ホームトパンバナ」のトライアルを行い、翌1992年より供給を開始。安心食材の入手と海外農業の発展を担っています。

1994 **さんぼんすぎセンター オープン**  
組合員の活動拠点が杉並区下高井戸に完成、名称は公募され「さんぼんすぎセンター」に決定。

## 2000年代

2001 **アレルギー相談室**  
アレルギー表示義務付けに合わせ開設。原材料やアレルギーについての疑問や相談も受け付け。※2023年7月12日をもって終了

**食の未来づくり運動の提唱**  
生産と消費をつなぎ、持続可能な農業のために提唱。産地訪問や生産者との交流会などを開催しています。





有限会社 匠産ジープセンター (千葉県)

きたがわ よしひさ  
北川 義久さん

①助け合い精神のすごさに感心・感謝。東日本大震災後の被災地支援、台風被害を受けた時もいち早く連絡をいただき、常に気にかけてくれる。②コロナ禍でオンラインでの交流会になる中、商品への思いを直接お伝えする大切さを実感。今後もたくさん交流ができる東都生協でいてください。③産直たまご、平飼いな産直たまご、ぱりんせすエッグ、うこっけいのたまご。④2002年。



JAつべつ (北海道) いしかわ つよし  
石川 剛さん

①組合員の皆さんの顔が見え、声が聞こえるところ。「おいしかったです」「頑張ってください」などの声は励みになります。②近年、異常気象が続いていますが、皆さんに食べてほしい一心で出荷しています。これからも津別町の「なまら(とても) おいしい」農産物をお届けします。③じゃがいも、玉ねぎ、かぼちゃ④1991年。



株式会社 マルダイ長沼商店 (宮城県)

ながめ やすひろ  
長沼 康裕さん

①東日本大震災の際の炊き出しや支援物資、激励など…おかげで早期の事業再開ができ、原動力になっています。②「東都冷凍とろろめかぶ」は産地でも評価の高い「牡鹿半島産」原料のみを使用。磯の香り、シャキシャキ・ネバネバの食感を試してください! ③宮城県産生食用かき、宮城県産加熱用かき、春採りわかめ。④1998年。



社会福祉法人ときわ会 サングリーン (東京都) まるやま しゅうへい  
丸山 就平さん

①環境・福祉に関心の高い組合員の方が多くいる、そんな東都生協が好きです。②障害のある人たちが働く場として、全ての製造工程にメンバーが関わり、丹精込めて製品を作っています。今後も安心して使っていただけるよう励みます。③ねり状米ぬか石けん「セモラ」、セモラスポンジ、きょうされんふきん。④1991年。



有限会社 かがしま有機生産組合 (鹿児島県)

やまぐち だいすけ  
山口 大輔さん

①組合員や生産者のことを考えて活動しているところ。②消費者の健康や生活がより健全なものであるようにと願い、安全でおいしい農産物を生産・販売しています。これも皆さまにうれしい野菜を提供できるよう、日々頑張っています。③さつまいも、じゃがいも、にんじん、玉ねぎ、ピーマン、枝豆、ズッキーニ。④2001年。



東洋ライス 株式会社 (東京都)

きたもと よしひろ  
北本 嘉平さん

①「人」「取り組み」「商品」において「誠実」なところ。信用のできるお取引先です。②「金芽米」のテスト販売から携わり、学習会、皆さまからのアンケートなど、お声をいただきながらの商品化は良い経験でした。次の50年に向けて、さらに愛される商品づくりをしていきます。③金芽米、金芽ロウカット玄米。④2004年。



東都生協  
50周年

# 生産者・メーカーの皆さんからの「祝」メッセージ!

- ①東都生協のいいところ、好きなところ
- ②組合員へのメッセージ
- ③取引商品
- ④取引開始年度

株式会社 東京コールドチェーン (神奈川県) なみかわ ゆうき  
浪川 優希さん

①原材料を把握し、安全・安心な商品を取り扱っているところ。組合員の皆さまの意識の高さは励みです。②安全・安心な商品提供や、食卓に彩り・楽しさ・幸せが実感できる商品開発をします。③東都肉まん、チャプチェ、レンジでお手軽メンチカツ、お手軽国産豚、おくらとなめこの山芋和え、東都黒豆塩大福など。④1983年。



きんまる星醤油 株式会社 (埼玉県)

おかもと まさや  
岡本 将也さん

①「産直」「国産」にこだわり続け、日本の農業を考えて取り組んでいるところ。②よく見かける「国産丸大豆しょうゆ」の先駆けは、東都生協だと聞いています。皆さまの家庭の味を担ってきたと思うと感慨深いです。これからも伝統の味をお届けします。③東都国産丸大豆しょうゆ900mlリユースびん、東都つゆ360mlリユースびん。④1973年。



保内生産者グループ (愛媛県) にのみや くに  
二宮 邦さん

①生産者と組合員との距離が近く、組合員の皆さまの商品知識が豊富で、いろいろな意見を直接聞けるところ。②年々若年層の柑橘離れが進んでいるので、もっと柑橘を好きになってもらえる企画が一緒にできればと思います。③みかん、いよかん、ポンカン、不知火、清見オレンジ、サンフルーツ。④1989年。



久保産直会 (長野県) こいけ ひろまさ  
小池 宏昌さん

①組合員の皆さんからの声は、産直会全員のモチベーションになっています。産地の状況に細かく対応していただき、感謝しています。②組合員の皆さんの支えがあって、久保産直会もまもなく50周年。今後もおいしいトマトと馬鈴薯をお届けします。③露地栽培大玉トマト サンロード白土馬鈴薯。④1974年。



千葉北部酪農農業協同組合 (千葉県)

たかはし けんじ  
高橋 憲二さん

①生産者が厳しい状況の時、一緒に考えて行動し、八千代牛乳を愛して下さる東都生協が大好きです。②「天然牛乳を安く飲む会」からのお付き合い。今、酪農を取り巻く環境は大変苦しい状況ですが、皆さまにうれしい牛乳をお届けできるよう頑張ります。③八千代牛乳・八千代ヨーグルト類・八千代牛・八千代黒牛など。④1973年。



## 誰もが安心して暮らせる地域社会づくり

地域に住む全ての人々が、安心して暮らせる社会の実現を目指して活動しています。

### 組合員の要望から生まれた福祉活動、くらしのサービスにおける福祉的事業

- 商品案内のリーディングサービス開始(1989年)  
組合員による「視覚障害者と協同するボランティアの会(通称 やまびこの会)」が音声録音協力。
- リサイクル洗びんセンター稼働(1994年)  
共同作業所全国連絡会(きょうされん)の商品の販売、社会福祉法人きょうされんリサイクル洗びんセンターの設立と募金・署名活動など障害者の自立支援を応援。
- 東都生協くらしの助け合いの会「ほっとはんど」設立(1999年)  
会員制の組合員同士の保育、家事援助などを有償で行う助け合い活動。
- 「東都生協 未来につなぐ募金」(2017年)  
地域で貧困問題の解決に取り組むフードバンクや子ども食堂などの活動(団体)を助成。

商品案内の吹き込み・編集作業をするボランティア(通称 やまびこの会)



## 環境や人に配慮した持続可能な社会の実現に向けて

産地・メーカーと共に、環境に優しい商品開発と普及を進め、産地と組合員が交流しながら理解を深めるための学習会を開催しています。

### 主な環境活動

- 資源循環型社会を目指した環境保全活動「魚つきの森植樹協議会」発足(2007年)  
(生産者と協同した森づくりのための植樹活動)
- 平飼い、かつ飼料自給率80%の「平飼いやさしい穂の香たまご」(2022年)  
その他、「3R活動」(リデュース・リユース・リサイクル)や環境測定活動「NO<sub>2</sub>測定」(大気汚染測定運動全部一斉調査)、環境に優しい省資源型の切り替え、CO<sub>2</sub>の削減に向け低公害車の導入など、環境に配慮した活動に取り組んでいます。



## 平和なくして生協なし

安全・安心な食品を求められるのは世の中が平和であるからこそ。その思いから「よりよいくらしと平和」を求めてさまざまな活動をしています。

### 主な平和活動

- 「一般社団法人 東友会(※)」との交流  
・戦争体験お話し会の開催や毎年、東友会の皆さんへ手編みの膝掛け贈呈など。
- 組合員から寄せられた平和募金  
・「東都生協平和のつどい」の開催  
・「ピースアクション in TOKYO・ヒロシマ・ナガサキ・オキナワ」への参加。  
・地域での平和募金活用企画。

※東友会：広島と長崎で人類初の原爆を体験し、その後東京で生活する被爆者が1958年に結成。核兵器廃絶、被爆者の諸制度の充実などの運動を行う。



## 『今までも、これからも、ずっと…』

「安全でおいしい牛乳をより安く飲みたい」という、その活動を受け継いで始まった東都生協。牛乳だけでなく「いのちとくらしを守る」ために、一人、また一人と思いを同じくする人が集まり、活動は広がっていきました。約25万人の組合員とその家族、さらに未来を生きる人たちを守るために、これからも東都生協は活動していきます。

### 継続的な被災地支援

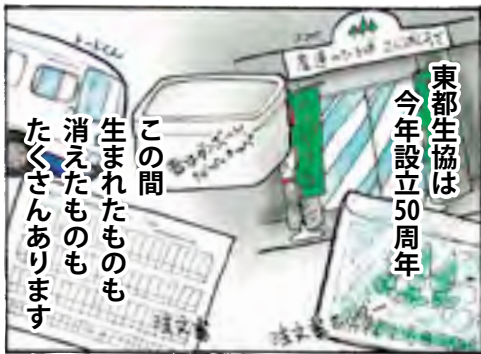
2011年3月11日の東日本大震災をはじめ、近年、数多くの台風被害、水害などが各地で発生しています。その都度、被災地の状況を見つつ、炊き出し・ボランティア派遣・支援募金活動などを行ってきました。また、「東日本大震災3.11を忘れない」企画を毎年開催し、多くの組合員が防災・減災について学んでいます。2022年には「東都生協災害ボランティア」を発足。

### 産地と直結した「産直」を基軸に

農業や化学肥料の使用をできるだけ抑えた安全・安心で、環境に配慮して作られた食べ物を食べたいという私たちの願い。それに応えてくれる産地・メーカーと交流し、「食べて応援」することが、日本の食料自給率を向上させること、「食の未来づくり運動」です。







## 今月のききがじり

お久しぶりのはじめまして

How♡to トト子さんは2002年7月から2010年4月までの約8年間東都生協だよりに掲載された組合員活動の紹介漫画です。今回は設立50周年に当たり特別に復活。既刊を読み返しているいろいろな活動があったなあとしみじみ。人生の半分、30年を機関誌と共に歩んできたなあと、これもまたしみじみの作者です。(by 荘子)

## 50周年ロゴマーク 制作者にインタビュー!

伊東 麻さん・顕治さん (中野区在住)

東都生協の「まじめなところ」が好きで続けています。50周年ロゴマークは、私とデザインの仕事をしている夫との共同作業にぴったりだと思ひ応募。「5」は口を大きく開けて「食べる」イメージです。5つの星は私たちが毎日食べている産直野菜・果物・牛乳・肉・魚介、矢印は未来につながるボタンであると同時に、組合員と生産者の思いが行き来していることを表しています。今回の選考は、一緒に東都生協を利用する90歳になる母も喜んでくれていると思います。



### 【50周年実行委員会より 選考評】

制作意図はもちろん、さんぽんすぎマークも入り50周年にふさわしいと思いました。

※組合員からの応募数157作品(手書き114、データ43)

## 祝! 50周年 イベント情報

みんなで参加して お祝いしよう!!

東都生協50周年感謝祭 Tohto Week  
産地・メーカーとの交流、おいしいものマーケット!

会場：JA東京アグリパーク(1階)・JA東京南新宿ビル会議室(3階)(新宿)

第1弾

～ありがとう50年～  
9月26日(火)～9月30日(土)

第2弾

～未来へつなぐ～  
2月27日(火)～3月2日(土)

50周年オンライン料理LIVE  
～プロから教わるかんたん韓国料理～  
YouTubeでライブ配信!(会場参加者も募集します)

食材紹介、  
講師による  
調理実演

開催日：10月14日(土) 午前11時開始予定

会場：キッチンランド江東

出演：須黒亮吉さん(有須黒食品)、林三樹夫さん(韓国料理店オーナーシェフ)

7月4日登場!! 河内晩柑やわらかドライフルーツ(熊本県産) **新商品**

河内晩柑(大矢野有機農産物供給センター)を使用したドライフルーツを開発。総代を対象に試食・アンケートを実施し、包材デザインや商品名を決定しました。

やわらかくしつかりとした味と香り

食べやすく、甘すぎず、おやつに最適



河内晩柑の味・香りを感じ、食感も良かった

一つ一つの形が大きく、ジュース



50周年記念サイト(ホームページ)を開設  
周年記念動画やイベント情報など、随時更新!!

※イベント詳細は、組合員活動情報紙「フォ」やホームページ(50周年記念サイト)などをご覧ください。